

(課題名) 当院における帝王切開術後鎮痛としての腹横筋膜面ブロックの効果についての後方視的検討について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

帝王切開分娩後の鎮痛には複数の種類があり、当院ではそれらを組み合わせながら副反応を最小限にしつつ痛みを抑えるようにさまざまな工夫をしています。その一つの方法として、通常の腰椎麻酔に加えて、術後の除痛のために腹横筋膜面ブロック（以下TAPブロック）を追加することがあります。

本研究の目的は、TAPブロックの効果を確認することにあります。TAPブロックを施行した患者さまとその他の方法で除痛した患者さまとで、手術の当日から数日後までの間で追加鎮痛薬をどのくらい必要としたかの差を調べることで比較します。そのことで、今後、より効果的な術後鎮痛の方法を確立するための手がかりを得ることを目的としています。

【対象】

本研究は、当院で2022年1月から8月までに帝王切開分娩を行なった患者さまを対象に調査を行います。

【調査項目】

TAPブロックを施行あるいは非施行の、それぞれの患者さまの、年齢、妊娠する前のBMI、経産回数、手術時間、術後点滴や坐薬等の鎮痛薬を追加使用した回数と使用時間をカルテ上の記載をもとにデータを抽出します。

すでに手術を終えて退院なさった患者さまのデータのみを使用させていただきます。治療や検査を追加することはありません。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【研究期間】

承認日から 2023年 7月 11日

(調査状況により調査期間を延長する可能性があります)

【研究機関・組織】

研究責任者

大西 洋子 産婦人科

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 産婦人科

〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号

TEL : 06-6387-3311 (代表)